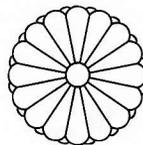




鹿児島県霧島市隼人町内2496番地1

大隅國一之宮  
国分正八幡 **鹿児島神宮社務所**

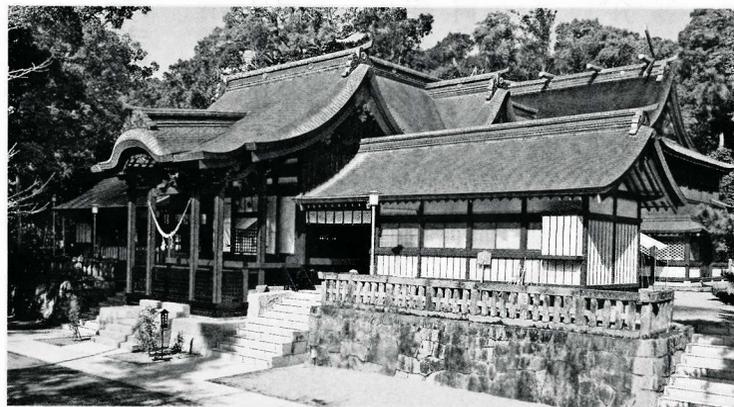
電話 0995 (42) 0020番  
郵便番号 899-5116



大隅國一之宮  
国分正八幡

# 鹿児島神宮由緒略記

(信仰玩具案内)



## 一、附近散策

- ① 高屋山上陵 (前項参照)
- ② 高千穂宮跡・石體神社 (石帯神社) 北東へ二〇〇 m
- ③ 隼人塚 熊襲の供養塔、隼人駅南約三〇〇 m
- ④ 蛭兒神社・奈気木杜・西郷どんの宿  
天蛭子命の漂着地、楠老樹、金筋竹あり 北東約二 km
- ⑤ 国分寺跡 国府の地 東約三 km
- ⑥ 日当山温泉 湯量豊富な温泉地帯で南州翁も愛でし温泉という 北東約三 km
- ⑦ 妙見温泉 湯量・湯種・湯治場が豊富で坂本龍馬・おりよう入湯の温泉あり  
北約一〇 km
- ⑧ 熊襲穴 熊襲の居住跡と伝えられ中に百畳敷の広間あり 北約一〇 km
- ⑨ 和気公謫居地・和気神社・犬飼ノ滝 北約一三 km
- ⑩ 嘉例川駅 北約一五 km
- ⑪ 横川駅 北約三〇 km
- ⑫ 上野原遺跡 東約十五 km
- ⑬ 十三塚原公園 西約一〇 km

(末尾地図参照)

## 一、信仰玩具

御祭神の豊富な神話に因む数々の信仰玩具は全国に有名であり情緒豊かな野趣と色彩を示している。

鯛車 海幸山幸の神話に因み御祭神の釣針を呑みとった赤女魚に模したものの化粧箱 俗に香箱とも呼ぶ、豊玉比売命が御輿入の時の御調度を玩具化したもので、大胆な花模様素朴な雅趣を表現す。

初鼓 はつつづみ、俗にぼんばちと称す、初午祭当日鈴懸馬に飾る豆太鼓を模したものである。

土鈴 朱色の小鈴で、原始的な形と古雅な音とが風趣を表現す。各戸口に吊して魔除としている。

其他 鳩笛 (八幡宮の御使) 笛太鼓 (御祭神の山遊びに使われたという) 羽子板 (神功皇后御懷妊で御出征の時ヨロイとの間に御使用になったと伝う) はじき猿 (藤祭に出る厄除けを意味する) 等がある。

# 大隅國一之宮 鹿兒島神宮由緒略記

一、鎮座地 鹿兒島県霧島市隼人町

交通の便

- ・日豊本線隼人駅より 徒歩十五分
- ・肥薩線日当山駅より 徒歩十五分
- ・鹿兒島空港より 車 二十分

一、御祭神

相殿

天津日高彦穗穗出見尊（山幸彦） 豊玉比売命  
帶中比子尊（仲哀天皇） 息長帶比売命（神功皇后）  
品陀和氣尊（応神天皇） 中比売命（同皇后）

一、御系統

天照大御神（伊勢神宮）―天忍穗耳尊（英彦山神宮福岡県）―瓊杵尊（霧島神宮）―彦穗穗出見尊（当宮）―鷓鴣葺不合尊（鵜戸神宮）―神日本磐余彦尊（神武天皇宮崎神宮）

一、由緒概要

鹿兒島神宮の御祭神は海幸山幸の神話によるところの社で創祀は遠く神代にあつて、又皇孫神武天皇の御代なりとも伝えられます。御祭神彦穗穗出見尊（別名山幸彦）は筑紫の国開拓の祖神に坐しましこの地に高千穂宮（皇居）を営み給い、五百八十歳の長寿に亘らせらるる間農耕畜産漁獵の道を指導し民政安定の基礎をつくり給うた御祭神である。

俗に正八幡、国分正八幡、大隅正八幡等と称し全国正八幡の本宮でもあります。醍醐天皇の延喜の制には（九〇一年）大社に列し大隅國一之宮として朝野の崇敬特に篤く宮繕の費は三州の正税を以て充てられ後鳥羽天皇建久年間（一一九八年）には社領二千五百余町歩の多きに至り江戸末期まで千石を有して居た。

明治四年国幣中社、同七年神宮号宣下官幣中社、同二十八年官幣大社に夫々列格す。

昭和十年昭和天皇の行幸を仰ぎ勅使皇族の御参拝は二十余度に及ぶ。現社殿は桃園天皇の宝曆六年（一七五六年）島津重年公（廿四代）の造営になるものである。

## 一、主な祭典並に特殊神事

例 祭 旧八月十五日 満月の十五夜の日で御神徳を仰ぐ由緒ある日である。  
七種 祭 一月七日 神印拝戴、翁舞、追儺式あり神印は元正天皇奉納（七  
二三年）の物で之を額に押戴くと年中災なく幼児は特に生育障なし  
といわれる。

初午 祭 旧正月十八日 御神馬を先頭に鈴懸馬多数が人馬一体となり踊りな  
がら参拝する、全国に類例のない神事で畜産奨励の御神徳によるも  
のである。（近時この日に近い日曜日に行う）

藤 祭 旧三月十日 御祭神が「わだつみの国」より御帰還された日とい  
われ、折しもこの季節は藤花の咲き匂う頃なのでこの名がある。

御田植 祭 旧五月五日 数十名の早男早乙女による古色豊かな挿秧の儀があり  
田ノ神舞、トド組、棒踊等の奉納がある。（この日に近い日曜日に行う）  
境内に七夕飾りの奉納がある。この祭典に合わせご神宝潮満珠潮干  
珠以外の宝物数十点が風入れの為陳列されるので拝観の好機である。

七夕 祭 十月第三週日曜日「放生会の大路」と古記に記述される道を通り隼  
人塚にて慰霊祭並に御神幸地浜御殿まで行列を組み、浜下りの神事  
を執り行う。

御浜下り祭

## 一、宝 物

御祭神が海の国にて受けられた潮満珠潮干珠を初め甲冑、古印、鏡、  
馬角、瑠璃屏風、青磁鉢、唐金花入其他がある。特に甲冑三領は文部  
省の重要美術品認定をうけ鹿児島県歴史資料センター黎明館に出陳さ  
れている。

刀剣秋広（重文）は、黎明館に出陳されているが、その他は（国宝を  
含む）は終戦時押収されて未だに不明である。

## 一、御 陵

高屋山上陵（たかやのやまのうえのみささぎ）と称し溝辺町にあり、  
当宮より西北へ約二〇kmで台地の上に鰻頭型をしている。鹿児島空港  
に近い。当町及び加治木町よりバスの便がある。（末尾地図参照）